

気候情報

2005年2月の日本の天候

全国的に日照時間少なく、日本海側で降水量多い

2月の天気概況

日本付近を低気圧が短い周期で通過し、ほぼ全国的に曇りや雪または雨の日が多くなり、降水量は北・東日本太平洋側を除いて多く、日照時間は全国的に少なかった。また、1月に引き続き気温の変動が大きく、低気圧通過後の強い寒気の影響で、月初めには東・西日本日本海側を中心に、中旬以降は北・東日本日本海側を中心に大雪となる日があり、月降雪量は北日本日本海側を中心に多かった。気温は、寒気の影響が大きかった北日本で低温となったものの、東・西日本は平年並で、南西諸島は高温となった。

上旬：1日に低気圧が日本付近を通過し、北海道の東海上で発達したため、日本付近は強い冬型の気圧配置となって東・西日本日本海側を中心に大雪となった。その後、寒気は徐々に弱まったものの、中頃まで冬型の気圧配置が持続した。また、旬の終わりには低気圧が本州南岸を通過したため、太平洋側でも雨や雪が降った。**旬平均気温**は、北日本と南西諸島で高く、東・西日本で平年並だった。**旬降水量**は、北・東日本日本海側で多く、北日本太平洋側で少なかったほかは平年並だった。**旬日照時間**は、全国的に少なかった。

中旬：初め冬型の気圧配置となって北・東日本日本海側を中心に大雪となった。また、上空の気圧の谷が通過したため太平洋側でも雨や雪が降った。その後は日本付近を短い周期で低気圧が発達しながら通過し、気温の変動が大きかった。このため、16日～17日にかけては太平洋側を中心に大雨や大雪となったほか、19日～20日にかけては北日本を中心に大雪となって関東地方でも雪が降った。**旬平均気温**は、北日本で低く、南西諸島で高かったほかは平年並だった。**旬降水量**は、全国的に多かった。**旬日照時間**は、全国的に少なかった。

下旬：初めオホーツク海の低気圧に向かって強い寒気が南下し、冬型の気圧配置となって北・東日本日本海側を中心に大雪となった。その後、日本付近を短い周期で低気圧が通過し、北日本では大荒れの天気となり、太平洋側でも雪が降った。低気圧通過後の旬の終わりには再び冬型の気圧配置となって強い寒気が入った。なお、23日～24日にかけては日本海から北日本を低気圧が発達しながら通過したため、23日には関東地方などで春一番が吹いた。**旬平均気温**は、北・西日本で低く、東日本、南西諸島で平年並だった。**旬降水量**は、北日本日本海側と南西諸島で多いほかは平年並だった。**旬日照時間**は、北・東日本日本海側と南西諸島で少なく、北日本太平洋側で平年並だったほかは多かった。

2月の気候統計

平均気温：東日本と西日本では平年並だったが、北

日本では低かった。また、南西諸島では高く、平年を1°C以上上回ったところがあった。相川（新潟県）では2月の平均気温の最低値を更新した。

降水量：北・東日本の太平洋側は平年並だったが、そのほかの地域では多かった。特に九州地方南部では平年の170%以上となったところがあった。白河（福島県）、都城（宮崎県）、宇和島（愛媛県）では2月の月降水量の最大値を更新した。

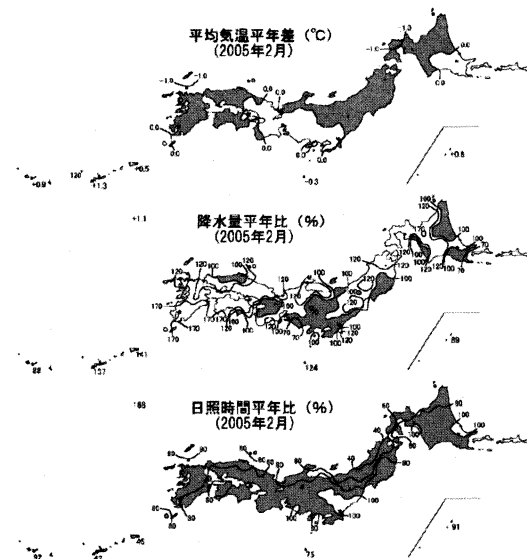
日照時間：全国的に少なく、特に北・東・西日本の日本海側と南西諸島ではかなり少なかった。東北地方の日本海側では平年の40%以下になったところがあり、秋田、輪島（石川県）、沖永良部（鹿児島県）など8地点で2月の月間日照時間の最小値を更新した。

降雪・積雪：降雪の深さ（月合計）および最深積雪ともに北日本日本海側を中心に多かった。宇和島（愛媛県）では、2月の降雪の深さ月合計の最大値を更新し、尾鷲（三重県）では降雪の深さ月合計と最深積雪の最大値を更新した。（気象庁観測部統計室）

2月の記録（1位更新のみ）

- ・月平均気温の低い方から（°C）
相川 2.6
- ・月降水量の多い方から（mm）
白河 53.5 都城 257.0 宇和島 117.5
- ・月間日照時間の少ない方から（時間）
江差 27.7 秋田 24.4 輪島 27.3
沖永良部 33.8 など8地点
- ・降雪の深さ月合計の多い方から（cm）
尾鷲 8 宇和島 13
- ・月最深積雪の大きい方から（cm）
尾鷲 5

2005年2月の平年差（比）図



注) 陰影の部分は、平年より低い（少ない）地域を示す